

学校名		佐賀市立金立小学校																				
1 前年度 評価結果の概要		・校内研究を中心に全職員で共通理解・共通実践を図りながら「金立小 授業づくりチェックシート」に沿って、普段の授業の振り返りや見直しを行い、授業改善に努めることができた。学習規律や生活規律の徹底に加え、児童の学びの質を高めるような授業づくりを継続していきたい。 ・心の教育では、職員の研修や特別支援教育理解についての人権教室を実施し、各担当者の提案を基に組織的に取り組んだことがいじめ防止や人権意識の向上につながった。「I・Q・U」の結果を生かし、開発的生徒指導の観点から児童一人一人に役割を与え、集団生活への満足度を向上させることができた。今年度も報告・連絡・相談を密にして学校全体でよりきめ細かな支援体制づくりに取り組む。 ・学校運営に係る業務改善については、自発的勤務時間の上限45時間を平均では下回ったが、適正な勤務時間の管理に加え、仕事の質の向上を図るため、業務内容について定期的な点検・改善を行い、働きがいのある職場づくりに努める。 ・前年度は、様々な場面で地域との交流や小中合同の交流を制限なしで実施することができた。コミュニティスクールを活用し形態等を工夫しながら地域連携や幼小中連携を進め、社会に開かれた教育活動を充実させていきたい。																				
2 学校教育目標		志高く 心豊かに 学ぶ 金立																				
3 本年度の重点目標		①目指す子ども像（かしこい子・やさしい子・たくましい子・ふるさとを愛する子）の確かな実現 ②特別支援教育の充実 ③働きやすい職場環境づくり ④地域・保護者に開かれた学校づくり																				
4 重点取組内容・成果指標		中間評価										5 最終評価		主な担当者								
(1)共通評価項目																						
		重点取組		成果指標 (数値目標)		具体的取組		中間評価		最終評価		学校関係者評価										
評価項目		取組内容						進捗度 (評価)		進捗状況と見直し		達成度 (評価)			実施結果		評価		意見や提言			
●学力の向上		○全職員による共通理解と共通実践 普段の授業の不断の見直し		○教職員アンケートで「授業づくりチェックシート」に沿って、普段の授業の振り返りや見直しを行っていることに肯定的に回答した教員が92%以上。 ○1学期に児童アンケートで実態把握を行い、「学習の約束」を見直す。その上で、1月のアンケートで「きまりを守る」ことができている」に肯定的に回答した児童の割合が90%以上。加重平均3.5以上。 ○児童アンケートで「読書をするのは楽しい」に肯定的に回答した児童の割合が91%以上。		・「授業づくりチェックシート」を活用した本校校内研の取組を徹底していく。教職員入れ替わりに伴い、本取組の意義を再確認し、共通理解を必要とする。 ・7月のアンケートで肯定的に回答した児童の割合は、93.8%。加重平均は3.50でいずれも目標に達している。7月24日、9月3日に見直しを行った。 ・7月のアンケートで肯定的に回答した児童の割合は、90.2%でわずかに目標に達していない。校内研修においては、児童の読書の質を高めるための方法が多く提案された。		B		B		・1月のアンケートで教員の割合は100%だったが、加重平均は、3.21であった。全職員が意識して実践したものの「徹底する」という部分ではまだ改善の余地がある。 ・結果は、全体で95.7%。加重平均は3.47。今年度、「学習の約束」の内容を発達段階に応じて一部変更した。目標を上回ったが、加重平均はわずかに届かなかった。 ・結果は、全体で86.6%。加重平均3.46。児童の二極化が進んでおり、低学年からの家庭と連携した指導の重要性を確認した。次年度は、「自分の考えを伝えること」について取り組むこととする。			B		・授業改善の取組を評価するには、授業参観の他に、個に応じた授業案に取り組んでいることがわかる指導案、裏付けとなる資料等があった方がよいのではないかと思われる。 ・タブレットの使用が多くなってきたが、文字を手書きする機会も確保していただきたい。鉛筆の正しい握り方の指導を徹底してほしい。 ・学校は、授業改善に取り組んでいると思う。個に応じた授業(クラス内や特別支援学級)も対応していると思う。 ・補助の先生も多く、細やかな関りがなされている。		【確かな学び部】・学力向上対策・研究主任			
●心の教育		●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動することなど、豊かな心を身に付ける教育活動		○児童アンケートで「人権集会などを通して人権について深く考えることができた」に肯定的に回答した児童の割合が90%以上 ○学校生活アンケートの道徳に関する項目において、肯定的な回答をした児童の割合が90%以上。 ○読書において、各学年の目標冊数を達成した児童の割合が80%以上。		・毎月第3木曜日に人権集会または、人権教室を行い、児童の人権意識の高揚を図る。 ・学校全体で道徳の別業を作り、実施する。 ・授業参観で「ふれあい道徳」の授業を行い、保護者への啓発を図る。		B		・学校生活アンケートの道徳に関する項目において、肯定的な回答をした児童の割合は96%であった。 ・道徳の別業は作成途中。「ふれあい道徳」の授業は全学級実施済みである。 ・計画的に人権集会や人権教室を行っている。それによって、友達のことを理解しようとする意識が見られた。今後も、人権集会や人権教室だけでなく、教育活動全体を通して人権・同和教育を行う必要がある。		B			・児童アンケートで、道徳に関する項目において肯定的な回答をした児童の割合は93%で、加重平均は3.63であった。 ・道徳の別業は今後加除修正を定期的に行っていく。ふれあい道徳については、保護者参加型の実施をお願いしていく。 ・児童アンケートで「人権集会などを通して人権について深く考えることができた」に肯定的に回答した児童の割合が93%以上であった。今後、全体での集会や各学年に応じた人権課題について人権・同和教育を推進していく。		A		・ある子は名前に「さん」「くん」付け、ある子は呼び捨て、これは差別である。 ・叱るときは、場所を変えるべき。みんなの前ではよくない。褒めることが大事である。 ・友達の良いところさがしや言葉遣いについても学校で指導していただいている。社会でのマナー等、計画が立てられ、学習できるように配慮されている。 ・いじめに対する早期発見、早期対応がしっかりされているので、ありがたい。		・道徳教育推進教員 ・人権・同和教育担当	
●心の教育		●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実		○教職員アンケートで「いじめの未然防止及び早期発見・早期解決のための組織的・継続的な対応ができてい」に肯定的に回答した教職員の割合が95%以上。 ○児童アンケートで「学校が楽しい」と回答した児童の割合が85%以上。		・毎月子ども支援会で、気になる児童や問題行動を確認するとともに、学年グループを中心に複数の教員で児童に関わる。いじめにつながる言動の早期発見・早期対応に努める。 ・毎月の「いじめ・いのちを考える日」に「生活と心のアンケート」を実施し、気になる児童について情報を把握して面談等を行い、解決を図る。 ・人権教室や道徳の授業を通して、いじめをしない、いじめを許さない児童を育てると共に、支持的風土のある学級づくりをする。		B		・教職員アンケートでいじめの未然防止及び早期発見・早期解決のための組織的・継続的な対応ができてい」に肯定的に回答した教職員の割合が95%以上を目標としていたが、94%と、わずかに届かなかった。全職員が共通の意識のもとに取り組んでいくよう、引き続き取り組みを進めている。 ・児童アンケートで「学校が楽しい」と回答した児童の割合が85%以上。の目標のところ、82.7%と、今一つの結果であった。一人でも多くの児童が学校が楽しいところとなるように、学級づくり、人権教室、道徳の授業などの改善に努めていきたい。		B			・教職員アンケートでいじめの未然防止及び早期発見・早期解決のための組織的・継続的な対応ができてい」に肯定的に回答した教職員の割合は100%となり、全職員が共通の意識のもとに取り組むを進めることができたと考えられる。一方で、児童アンケートで「学校が楽しい」と回答した児童の割合は81.8%と、前回は下回った。不登校傾向の児童も増えていることから、しっかりと要因を分析し、今後の取組について改善していく必要がある。		B		・SNSでのトラブル、仲間はずしが、いじめに発展することもありそうだが、これからもスマホの利用ルール等、子ども、保護者には働きかけをほしい。 ・ネットの情報が本当に正しいかを疑うことができるようになってほしい。 ・児童のみでなく、家庭にも輪を広げ保護者の感じ方まで丁寧に情報を収集している。 ・児童の自己評価「いじめ0の約束」項目は、高得点であり、意識した取組になっていると思う。		【豊かな心部】 ・生徒指導 ・教育相談	
●健康・体づくり		●①児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動		●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と思う児童生徒90%以上 ●②「何事かの夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒88%以上		・中学校区の共通取組「出番・役割・承認」を全教職員で具現化する。 ・キャリアポートを活用し、児童一人一人の個人目標の自己決定に向けた指導の充実を図る。また、その目標達成に向けた取組や活動の振り返りを記録し、自己の発育を意識させるなど、キャリア教育の充実を図る。		A		・7月のアンケートで肯定的に回答した児童の割合は、96.4%で、数値目標を上回ることができた。児童の言動などを観察し、普段から丁寧な指導を継続していき。 ・7月のアンケートで肯定的に回答した児童の割合は、90.7%とこちらも目標を上回ることができた。普段の指導に加え、ふれあい文化祭等の行事を活用して、今後も「出番・役割・承認」の取組を実施していく。		A			・1月のアンケートで肯定的に回答した児童の割合は、95.2%で、目標を上回ることができた。「児童の言葉遣い」についての指導を徹底しようと同様に共有したことも成果の一助として挙げられる。 ・1月のアンケートで肯定的に回答した児童の割合は、90%でこちらも目標を上回ることができた。今後も「出番・役割・承認」の取組を実施しつつ、否定的な回答をした児童への配慮も続けていく必要がある。		A		・目標は、学年に応じて具体的なものがよいと思う。年度初めにじっくりと考える作成すべきである。 ・授業参観日の前に、キャリア教育で授業をする学年がわかれば、関係者も参観しやすい。 ・小学校高学年から仕事に触れる機会があればよい。地元の工場を見学するなどの機会をもっとほしい。 ・手本となる大人が、憧れられるように輝いていることが一番の環境である。		・教務主任 ・特別活動	
●健康・体づくり		①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」		①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童75%以上 ②「健康に良い食事をしている」児童80%以上 ③給食後の歯みがき100%		・「さわやかタイム(縦割り活動)」を実施し、戸外での運動を推奨する。 ・給食便りで朝食の必要性や給食献立について伝える。年2回、朝食についてのアンケートを実施する。 ・養護教諭や栄養職員、歯科校医等と連携して、食育や健康に関する指導や授業を行う。 ・保健タイム」を実施し、養護教諭作成のスライド教材を活用した担任による保健指導を行う。		A		・給食便りを通して、朝食の必要性などについて伝えることができた。また、6月に第1回の「早寝・早起き・朝ごはん」チェックシートを実施することができた。朝食を取れている児童が9割以上だったため、11月の食育月間に、向けて引き続き指導していきたい。 ・フットボール時には、随時歯科校医と連携して全学年への安全指導実施。歯科検診時には歯科衛生士からの歯科保健指導実施。歯科校医からは1・3・6年生への歯科保健指導、現在1年生実施済み。2学期3年生、3学期6年生と実施予定。 ・6月の「保健タイム」実施後に行った、歯みがきチャレンジでは全クラス給食後の歯みがき100%達成、これで4年連続達成。		A			・年間を通して、給食便りで食育に関する情報を伝えることができた。また、「給食フェスタ」などの委員会活動を通して食に関する指導を行うこともできた。「健康による」食事をしている」に回答した児童は90%以上であった。 ・高学年のアンケートで、6月「よくかんで食べよう」9月「熱中症予防」11月「かぜを予防しよう」の保健タイムはためになったかの質問に肯定的に回答した児童が100%であった。 ・高学年のアンケートで、給食後の歯みがき定着率は98.3%であった。		A		・(幼稚園より)食べ物の好き嫌いが増えてきている。栄養面で心配している。 ・スポーツテストのとき、やり方をきちんと教えてほしい。 ・食育に関する目標は、達成されているように感じるが、運動に関する達成度が少しわかりにくいように感じる。		【さわやかな育ち部】 ・体育主任 ・食育、給食指導 ・健康教育、保健指導 ・学校栄養職員	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進		●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減		●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。		・教職員から業務改善のアイデアを募り、実践していく。 ・教職員各自が自身の業務改善の目標と具体的手立てを考え、取り組む。 ・定時退勤日(金曜日)を設定するとともに、定時退勤日以外の日も退勤時刻を早められるよう、声掛けをしていく。 ・週に1度の連絡会の時間が長いので、短時間で終わることができるように、工夫改善していく。 ・地域ボランティアを活用し、各種教育活動における教員の負担軽減と活動の質の向上を図る。		B		・教職員にアンケートをとったところ「1月の時間外在校等時間45時間遵守」の意識は高いが、毎月約5割の教職員が、上限を超えているのが現状である。各教職員に募った業務改善のアイデアを今後実践していきたい。 ・定時退勤日も時間外在校時間が長い教職員がいるため、1週間を見通した業務の遂行を呼びかけていく。 ・週に1度の連絡会(ミーティング)は、PC上に連絡事項を入力し、口頭での連絡を減らした。そのことにより、連絡会の時間を短縮することができた。 ・地域学校協働活動推進員と学校とで連携した地域ボランティアの活用は、児童にとって有意義であると同時に、担任の負担軽減につながっている。		B			・教職員アンケートの回答では、上期と比較して「1月の時間外在校等時間45時間遵守」の意識の高まりが見られる(加重平均3.06→3.37)。 ・1月の上限45時間を超えている職員が固定化しているため、個人の意識改革と業務の平準化を図っていくきたい。		A		・遅くまで先生方の車があるのを見かけると、よく残業しているのかなと思う。 ・教職員のアンケート結果はよかった。実現に向けて地域の力を活用していただきたい。		・校長 ・教頭 ・教務主任	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進		○服務規律の保持と働きやすい職場環境づくり		○教職員アンケートで「学校の内外を問わず、危機管理意識をもって行動できている」に肯定的に回答した教職員が100% ○年間を通して、教職員の信用失墜行為ゼロ		・毎月10日を「不祥事根絶ゼロの日」の取組の日とし、不祥事予防のための個人チェックをすることにより、職員の危機管理意識を高める。 ・管理職による呼びかけや「校長便り」の発行などを通して、具体的に実行力のある指導を行う。		A		・「ゼロの日」の個人チェックを毎月欠かさずに行っている。教職員アンケートで「学校の内外を問わず、危機管理意識をもって行動できている」に肯定的に回答した教職員は100%であり、意識の高まりが見られる。 ・「校長より」で校長の言葉で不祥事防止を呼び掛けたり、学校事故や不祥事の新聞記事を取り上げたりして、教職員各自が不祥事を「自分事」として考えることができるように、手立てを講じている。上半期は、交通加害事故、その他信用失墜行為は0件である。		A		・アンケートに肯定的な回答した教職員は100%で、目標を達成できた。しかし、加重平均は3.83であったため、4.0になるようにさらなる意識向上を図っていく。 ・管理職による不祥事防止の呼びかけを上期から継続して行い、12月には放課後運動会減速のスローガン作成を全職員で行った。今年度、信用失墜行為は0件で目標を達成することができた。		A		・地域としても、学校の先生たちが働きやすくなるように協力したい。 ・人を育てる仕事は目に見えない苦労があると思う。熱い先生がつぶれないような働き方改革をお願いしたい。		・校長 ・教頭		
●特別支援教育の充実		○個々の児童の「困り感」に寄り添った教育の実現		○教職員アンケートにおいて、「特別支援教育に関する専門性が向上した」について肯定的に回答した教職員の割合が95%以上。「特別支援的な配慮を心掛けている」について肯定的に回答した教職員の割合が90%以上。		・年間3回以上の研修会を行い、教員の専門的知識と行動力を高める。 ・子ども支援会や気になる児童の事例研究などを通して児童理解に努め、個の「困り感」に寄り添った指導・支援を行う。 ・各学年、金立特別支援学校との交流計画を立案し、交流を行う。		A		・「特別支援教育の充実のために」(8月)、アセスメントと自立活動を踏まえた具体的な支援について(8月)、すべての児童生徒が学びやすい授業づくりに向けて(10月)、計3回研修会を行った。 ・特別支援学校との交流は、実施した学年でこれから実施する学年がある。自己紹介やゲーム、ダンスや歌の発表などで交流を進めている。		A		・「特別支援教育に関する専門性が向上した」について肯定的に回答した教職員の割合が100%。「特別支援的な配慮を心掛けている」について肯定的に回答した教職員の割合が96%であり、成果指標を達成することができた。 ・特別支援学校との交流は、全学年が交流を行うことができた。学校紹介やメッセージ、出し物、風船バレーやバルーンの活動などで、交流を深めることができた。		A		・様々なケースの子どもが増える中、ケースに応じたの学びを続けてくたさず、ありがたいと思う。 ・特別支援教育の一人一人に応じた指導計画は、障害のある子どもだけでなく、全ての子どもたちに有効な指導であることから、研修会開催、及び個別の計画を作成してほしい。		・特別支援教育(特別支援CO)		
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目																						
		重点取組		成果指標 (数値目標)		具体的取組		中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者								
評価項目		重点取組内容						進捗度 (評価)		進捗状況と見直し		達成度 (評価)			実施結果		評価		意見や提言			
○地域連携教育		○ふるさとを愛する児童の育成と地域・保護者に開かれた学校づくり		○児童アンケートで「ふるさと「金立」に愛着をもち大切にしようと思う」に肯定的に回答した児童の割合が95%以上。 ○保護者アンケートで「学校と地域が連携しながら取り組んでいるか」について肯定的に回答した割合が95%以上。 ○平均、週に3回以上の学校HPのお知らせ、学校HPのイベントギャラリー等の更新を行う。 ○年間を通して、40号以上の学校便りを発行する。		・金立町の教育資源や人材等を活用した「金立郷土かるた大会」や「金立探検隊」などを通して、児童がこれまで以上にふるさと「金立」のことを知り、愛着をもつことができるようにする。 ・「千の花の会」(3年生)や「美化美化大作戦」への児童の参加などを通して、地域とつながる取組の充実を図る。 ・これまでの連携実績を踏まえ、今後の金立小学校地域連携モデルを構築する。		A		・児童が、「千の花の会」(3年生)や「美化美化大作戦」へ参加を行い、地域とつながる取組の充実を図ることができている。今後行われる「はがくれの里まつり」への参加も促していく。 ・上半期(9月末)までに、学校HPのお知らせを36回、イベントギャラリーを88回更新した。また、学校便りは、25号発行し、保護者や地域への情報発信を継続している。		A			・11月「はがくれの里まつり」、12月「金立郷土かるた大会」、2月「自主防災訓練」等、多くの地域行事に児童が参加し、地域とつながる取組の充実を図ることができた。 ・今年度、2月末までに、学校HPのお知らせを60回、イベントギャラリーを173回更新した。また、学校便りは50号発行し、保護者や地域から「学校の様子がよくわかります」と称賛の声をいただいている。		A		・とてもよい活動だと思う。 ・金立のかかるたは子どもたちがみんな大好きなようで、感心した。金立探検隊も地域の方の協力もあり、金立に愛着をもつ子どもが増えたようだ。 ・「ふるさと金立」に関する教職員アンケートでは「そう思う」が「6」にに対し、「どちらかといえばそう思う」が「17」。この結果からも地域人材の力を借りることは、当然ながら、学芸支援ボランティアとして、教科の指導補助に来た人たちは、子どもたちの素直に接する態度を喜んでいる。		・校長 ・教頭	
○幼保小中連携		○雄飛学園教育構想による金泉校区の教育推進		○幼保小中連携協議会や雄飛学園教育研究会において、職員の交流や連携を行う。 (連絡協議会 3回、合同研修会 3回の実施)		・金立幼稚園、平布幼稚園の1日学校体験(12月)の充実を図り、新人児童の円滑な入学につなげる。 ・金泉中、久保泉小の教職員との相互フリー参観を計画的に実施し、小小連携、小中連携を推進する。 ・教職員の3校合同会議・合同研修を行い、雄飛学園教育の取組の推進を図る。 ・「出番・役割・承認」の取組の徹底を図る。		B		・幼保小との連携では、情報収集のために、市の会議のみでなく、夏期休業中に巡回したり、本校で実施している学校運営協議会に園長が来られた際に、会議後情報共有を行った。今後は、就学児を見学するなどしてさらなる情報収集、共有に努める。 ・小小中連携においては、雄飛学園による三校合同研修会をこれまでに3回実施した。11月に本校での公開授業を計画しており、年度末に研修会、久保泉小公開授業などの計画を実施し、交流・連携を深めている。		B			・幼保小連携については、年2回、運営協議会の後に、連絡協議会を設け、実践することができている。2回目は、1年担任も加わって、より詳しい情報交換を行い、と考えている。 ・小小中連携については、雄飛学園による三校合同研修会や公開授業参観などを計画通り実施することができた。次年度に向けて、行事等の確認を行い、計画を立てることができた。		B		・(幼稚園から)情報交換が少し物足りないように感じる。園からアプローチすればよかったかもしれない。 ・特別支援教育についての情報交換に特化された感じも少なからずある。		・幼保小中連携(教務)	
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育																						
5 総合評価・次年度への展望		・校内研究を中心に全職員で「金立小授業づくりチェックシート」に沿って、普段の授業の振り返りや見直しを行ってきたが、全校的に「自分の考えを伝える」ことに対する意識が低かった。まずは自分の考えをもつことができる課題を設定し、話し合いの目的を明確にすることにより、児童が「自分の考えが伝わった」と実感できるようにする。 ・より多くの児童が「学校が楽しい」と感じることができるよう、特別支援教育に関する研修を充実させ、学校生活で関心をもつ児童への指導支援を充実させる。 ・時間外在校等時間が45時間を超える職員が固定化しているため、業務の平準化や働きがいの意識改革を推進していく。また、地域人材による学校への支援が、教職員の業務軽減につながった、今後も連携を密に行っていく。																				